

発行 = 21世紀教育研究所
所長 中山和彦

〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6
TEL 0298-50-3321 / FAX 0298-50-3330
E-mail econews@green.ocn.ne.jp
URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp>

パネルディスカッション ネットワークを使って共同学習を活性化させるためには	1
6年国語「やまなし」を使った交流学习 ~スタディノート即時転送交流をはじめるまで、授業、その後~	6
『お世話になりました』シャープシステムプロダクト(株)渡辺副参事ご退職	7
書籍・CD-ROMのご案内/スタディシリーズニュース	8

文部科学省指定 学びに生かすネットワーク「先進的教育用ネットワークモデル地域事業研究大会」 パネルディスカッション ネットワークを使って共同学習を活性化させるためには

コーディネータ：余田義彦先生（筑波女子大学）

パネラー：森田充先生（つくば市立竹園東中学校） 吉田浩先生（つくば市立竹園東小学校）
野村光弘先生（つくば市立並木小学校） 天貝貢先生（土浦市立土浦第二小学校）
山口正信先生（土浦市立大岩田小学校）

11月28日、つくば市・土浦市教育委員会主催の、文部科学省指定「先進的教育用ネットワークモデル地域事業研究大会」が行なわれました。そのときに行なわれたパネルディスカッションの様子をお伝えします。

先生方の意識を高め、子どもたちと一緒に学んでいく
余田：つくば土浦地区で、教育にネットワークをいかに使っていかという取り組みが始まったのは1988年からです。87年に臨時教育審議会の第3次答申が出され、その中にインテリジェントスクール構想というのがありました。学校を情報化していこうということです。新しく建てる学校はいいですが、既存の学校をどうやって情報化していくかということが非常に難しいのです。もちろんケーブルも張らないといけないし、先生方に研修を積んでもらって実際に活用していけるようにしていかなければなりません。今日授業を公開された竹園東小学校にも、88年に校内LANが入りました。いろいろと試行錯誤を積み重ねて、今日に至ります。

つくば土浦地域には、点ではなく面で、特定の学校だけではなくたくさんの学校が同じようにがんばっていくという良さがあります。しかし、ここまでくるのは並大抵のことではなかったかと思えます。まずは先生方に発想を変えていただくことが大変

だっただろうと思います。最初にネットワークを入れたとき、どんなことを考えてやってこられたか、天貝先生お願いします。

天貝：私は現在の土浦第二小学校に移って5年目ですが、初めコンピュータを持っている先生はほとんどいませんでした。その中でコンピュータ活用をどう進めたらいいのかを考えたとき、児童のコンピュータ利用の目的はもちろん達成しなければなりませんでしたが、それ以前にまず先生方のコンピュータ利用を高めなければいけないと考えました。そのために、まず職員室のプリンタ共有をやってみようとして職員室のネットワーク構築をしました。どこの机からもプリンタが使えることで非常に便利だということが理解され、それをきっかけに職員室のコンピュータ利用が高められたのではと思います。その上で、コンピュータを子どもたちにどういうふうに活用させるかということですが、本校で研究発表会を持つ機会もありまして、情報教育関係の研修会を初期の段階で何度も開きました。たくさん研修会

を開くことにも壁があると思いますが、これからの社会のことを考えるとやはり必要だろうと理解を得て、ネットワークも初期の段階で構築しました。

森田：私も同じように、先生がまず便利であるということを実感できる場作りが大切だと感じています。私は今年度4月から現在の竹園東中学校に移りました。来た時にはすでにネットワークを構築してデータのやりとりをしたり、いろんな文章を交換しあったりなどしていましたが、あまり授業で使われてはいませんでした。ところが、現在は授業で先生方が本当によく使っています。それはなぜなのかを考えてみますと、今回の研究を通して、先生方がまず授業で使ってみて、使いながら子どもたちとレベルアップしていく、ということがあったのではと思います。子どもたちが使い出すと、もっとこういう学びをさせたいのだがどうしたらいいのかと探るようになり、そして誰か教えられる人いませんかと広がっていきます。そこに校内研修がうまく結びついて学校全体が高まるのではと思います。

余田：一つは職員室の校内LANでネットワークに慣れていただくということですね。でもそれだけではなく、授業で使ってもらうためのイメージ作りが重要だということですね。

どうしたら先生にネットワークを使ってもらえるか
余田：では、実際にどのように先生に実際に使っていただくか、どうやってイメージを共有していくか、吉田先生いろいろ経験されていると思うのでお願いします。

吉田：今はいろんなところでコンピュータ研修が開かれています。そこで、使い方を学ぶ研修会も必要ですが、それだけで終わらないことが大切です。コンピュータを使ってどう授業に活かしていくのかという研修に力を入れることが、ネットワークを効果的に使う授業に繋がっていくと思います。つくば市の場合、使い方の研修も行ないますが、それだけではなく、それをどう授業に活かすかという研修会を毎年夏休みに行なっています。コンピュータ研修というと情報教育担当者の研修が多いですが、去年からは情報教育担当者ではなくて、逆に研究主任や学年主任を対象にどういうふうに授業に取り入れていくか、という研修を行なっています。現在つくば市全体で共同学習が進んでいますが、こうした研修を行なってきたことも共同学習が活性化していった一つの要因ではないかと思っています。

山口：土浦市では、学校間を自由に動ける先生がいます。研修をするときや、わからないことがあったときなどに学校に来ていただき、先生方のレベル

アップを図ってきました。

余田：野村先生、こういうふうにやると他の先生へ一気に広がるといことがありましたらお願いします。

野村：本校では、高学年が低学年にコンピュータの使い方を教えるといった交流学習を行なっています。コンピュータの使い方を1、2年生が覚えると、1、2年生から高学年にありがとうメールを送ってくれたりします。それをきっかけに、2年生から5年生に「2年生のときはどういうお祭りの出し物をしましたか」など質問のメールが来て、子どもどうしの交流がはじまっていきました。すると、低学年の子どもたちからもっとこういうふうにしたい、もっと他の学年の人にいるんなやり方を聞きたいという願いが生まれてきます。担任の先生は、必要に迫られて自己研修を積んでいくようになり、だんだん先生方のスキルがアップしていっています。

余田：先生からではなくて、子どもたちからしかけていくということですね。

野村：低学年の子どもがコンピュータを使えるようになることは大変だと思いますが、ネットワークは繋がっていますので、他の学年の子どもたちから教わることができます。

余田：低学年の子どもたちが使っていれば、先生たちも、自分もできるんじゃないかという気持ちになってきますね。では、ここからは会場から質問をいただいで進めていきたいと思います。

“コンピュータを”使う？“授業で”使う？

Q1：私の中学校の先生方も自分ではよく使えます。しかし、授業になかなか結びつきません。私は、手前に“コンピュータを使う”ということがあって、奥に“授業で使う”ということがあるものなのか？いきなり奥へはいけないだろうか？ということをよく考えるのですが。

森田：各学校に任せているだけでは共同学習や交流学習というものは進まないと思います。つくば市では、交流学習を担当する先生を一堂に集めて、「こういう交流学習を進めています、それにのってくれる学校はありませんか」と呼びかけをして、即その場で一覧表を作ってしまう。その際、課題を投げかけたり提案をしたりしてそこへ名前を出した学校はつきあわなければなりません。逆にそういう形にして、“そういった活動をしなければいけない環境”といったら変かもしれませんが、そうした働きかけをしていくということも大切だと思います。

余田：つくば市には共同学習プロジェクトがあり、約40の学習テーマについて共同学習がおこなわれていますが、まずこういう授業をやってみようという

ころからスタートするんですね。そして、やり始めるとコンピュータもネットワークも使わなくちゃいけないとなるのです。使っているうちに使い方もだんだん覚えていきます。プロジェクトからスタートするということですね。

ネットワークを利用した授業で、学力をどう捉えるか
Q2：コンピュータを利用した授業で、各学校あるいは先生方個人が学力をどう捉えて授業を展開されているのか、職員の中ではどういう話をされているのか教えていただきたい。また、授業の中でこんなところを注意しなければならないとか、その中で育つ集団性をどう考えているか、教えてください。

野村：すべての教科で“関わり合い”というのが大切だと思います。関わり合いをより広くより高めるために大切なのがネットワークだと思うのです。本校の場合は、関わり合いを通して最後まで問題を解決していく力を身につけさせたいと考えています。例えば、まず自分の考えを持たせます。そして、自分がやってみたいことを考え、そのときにたくさんの時間を使って自分の課題を持たせます。そして、課題を解決していくために試行錯誤を行なっていきます。試行錯誤の中で解決できるのもあれば、解決できないものもあります。そうした壁にぶつかったときに重要なのが、ネットワークを通しての他の人との関わり合いです。ネットワークを通して、たくさんの人やたくさんの考えを知り、自分の考えをその関わり合いの中で身につけさせます。最終的には、集団で身につけた力をもとに最後は自分の力で問題を解決していく力へつなげていきたいと本校では実践しています。

天貝：学力については様々な捉え方があると思います。交流学习を進めるにあたり、総合的な学習の時間に身につけさせるべき能力や観点は、各学校で設定できていることになっています。本校では4点設けていますが、そのうちの一つに、情報活用能力、情報活用の実践力、中でもとりわけ表現力を高めたいという方向を徹底しています。また、集団でものをどう考えていくかということですが、以前からつくば市ではCAI学習が盛んに行なわれており、当時から言われていることですが、コンピュータを使うことによって集団でのふれあいがなくなってしまうということはなく、むしろコンピュータから離れたときに、話し合いの活性が生まれてきているのが実状です。ネットワーク上でも、見えない人との交流や集団能力の高まりが得られていると考え、実践しています。

野村：ネットワークを使った共同学習をするときに一番大切なのは、教師側が子どもたちにどういう力を

つけたいのかをまず持っていないといけないことです。その上で、ネットワークをどう活かすか、共同学習にどう活かすかなのです。共同学習をする上でも、同じテーマや同じ問題でなくても、例えば情報リテラシーをつけたい、表現力をつけたい、コミュニケーション能力をつけたい、といった「子どもたちにこういう力をつけたい」というのがあった上で、ネットワークを通して学習をしていくことが大切だと思います。私は、インターネットで調べたときに、調べたことが本当なのか実際に戸外へ行って調べてみよう、といった活動、または、戸外で調べているときにこの植物はなんていう植物かな、じゃあインターネットで調べてみよう、ネットワークで他の友達に聞いてみよう、というようにネットワークを利用しています。

余田：インターネットで調べて、それが本当なのか、実際に問題を別の方向で調べていくというお話がありました。ネットワークを使っているんな情報を見ていると、それを鵜呑みにしてしまう傾向があります。インターネットには嘘も含めているんな情報が入っていますから、むしろ仮説形成の手段として捉えて、それを参考にして新たな追求をはじめていく、というような姿勢を身につけさせることが大切なんじゃないかなと思います。

助け合いで成り立つ日々の授業

Q3：今日、並木小学校の授業を見させていただいて、学校全体で様々なプロジェクトが同時に動いていることに驚きました。本校でもこういうことをやってみたいと思いましたが、一度にたくさんの活動が動いてしまうとなかなか子どもたちにサポートができないのが現状です。また、本校でフルにパソコンが動いていたら、ハードディスク面でのトラブル対処が難しいと思うのです。今日の研究会で“ボランティア札”をつけた方がいらっしゃいましたが、地域の方のサポート、特につくばでは大学の先生方のサポートもあると思いますが、その辺りはどのようになっているのでしょうか。

野村：本校の場合、5年生だけで約30のプロジェクトチームが同時進行しています。5年生は3クラスで、学年担任3人+TT1人で、4人います。その4人で80人近い子どもたちをどう把握するかということで、我々は学習過程の工夫をしています。具体的に言いますと、1時間に3つのゾーンを設けています。一つは自分が研究してきたことについてアドバイスをもらうゾーン、一つは自分の研究についてとことん一時間話し合うゾーン、もう一つは自分の研究をまとめたり実験物を作ったり、またインターネットで

調べたり他の学校とメールのやりとりをしたりして共同学習を進めていくゾーン、の3つです。時間ごとに子どもたちの研究内容は異なり、また子どもたちにも個人差があります。そこで、子どもたちは総合的な学習の時間が始まる前に、今日は何をしたいのかをカードに書きます。そして、子どもたちのニーズに合わせて人数配分を考慮し、毎時間どのゾーンを設けたらいいか考えて授業をおこなっています。全員が全員コンピュータを使うということはありませんので、コンピュータの台数が多くない場合も大丈夫です。また、外に出かけたいという場合も同じで、4人で充分支援することができます。なお、いつもネットワークではなく直接対話的な話し合いの力を身につけさせたいということで、月一回発表の時間を設けています。今日公開した授業は中間発表会です。

森田：中学校では、学年の教員だけでなく他学年の教員も加わっています。また、機械のトラブルや大学の先生方という話ですが、大学の先生、企業の方々、地域の人々のサポートがあって初めて日々の授業が成り立っています。つくば市は、以前から中山先生や余田先生をはじめとして、いろいろなサポートを受けてきており、企業の方からもご協力をいただいています。竹園東中では、地域のお父さんにプロシキサーバを作っていただきました。その方はお仕事でネットワーク管理をされていて、他の学校でもご協力いただいています。もちろん他にも地域のたくさんの方々にご協力いただいています。また、つくば市では、メディアコーディネータを養成する目的で組織を作ってメディアコーディネータを抱えています。つくば市からの委託を受けて、機械のサポートが必要な場合に手伝ったり、共同学習のサポートが必要な場合に手伝ったりして活動をしています。そうしたいろいろな面で助け合いながら、現在の状況が成り立っています。

山口：土浦にも情報教育委員会というのがあります。各学校から学校の中心になる方が集まり、学校内コンピュータの整備などを行っています。ネットワークの研修、使い方の研修など、各学校で学習活動に生かせるよう活動しています。共同学習においても、共通にできることを掲示板などを立ち上げてやっています。子どもたちの活動の意欲も増してきますし、空いている時間を使って積極的に活動している子どもも見られます。

余田：子どもたちの学習のサポートということで付け加えますと、子どもたちが学んでいることの成果をポートフォリオ的なものにして集約させています。子どもたちの学習の場面では、先生はあちこち忙しいと思いますが、子どもたちがどういうふうを考え

て進めているか、直接携わっていなくても、スタディノートの子どもたちが作ったノートを見ればだいたいわかってくるのです。また、ネットワークを活用することで、先生だけがサポートするのではなく、他の学校の子どもたちが学習をサポートしたり、保護者を含めた地域の支援者たちにメーリングリストに参加していただいてアドバイスを受けたりなどして、地域の教育力を上手に取り込むようにしています。

スタディノートを利用したデジタルポートフォリオ
Q4：私の学校でも総合的な学習に力を入れていますが、発表には模造紙を使う形がほとんどです。しかし、クラスに40人程いますから、その形では教室が模造紙だらけになってしまうのです。今日スタディノートを利用したデジタルポートフォリオというものに非常に興味を惹かれました。

吉田：デジタルポートフォリオは、今いろいろな学校で取り組みがされています。スタディノートのデータベースという機能では、子どもたちがまとめたものや今まで評価してきたものを全部コンピュータのハードディスクに残すことができます。竹園東小では、現在のネットワークを導入した3年前からずっとデータベースを残してきて、今では100以上のデータベースが残されています。私は6年生を担任していますが、卒業研究として一人ひとりが課題を持って解決する学習活動をしています。そのとき、特に課題を見つけることが非常に難しいわけですが、過去の卒業生のデータを参考に課題を選んでいったりすることができます。また、今日も授業でおこなったプレゼンテーションをすべてデジタルビデオで撮影しましたが、それをコンピュータのハードディスクに全部残す予定です。模造紙などではプレゼンテーションの様子を残すことはできないですよ。もちろん模造紙には模造紙の良さがありますが、デジタルポートフォリオには、やはりデジタルの良さがあるのだと思います。本校では、総合的な学習の時間以外でも国語や社会、図工などでもデジタルポートフォリオを取り入れて、授業に取り組んでいます。

発達段階に応じた目標、および情報モラルへの対応
Q5：リテラシー面、日常の発達段階的のプランをご紹介下さい。なお、有害情報やネット上でのエチケットの面で、子どもたちにどう指導されているか教えて下さい。

天貝：土浦市は学校独自ですが、本校の場合は発達段階に応じて簡単なプランを立てています。例えば、マウス操作やインターネット操作というところで、表計算などはやっていません。スタディノート操作に関しては、低学年から、1年生を2年生が教える

という形でおこなっています。休み時間等も学年ごとに使える曜日が決まっていますが、高学年が低学年に教えてあげたりして、低学年でもコンピュータが使えるようにとやっています。有害情報はサーバでカットできるようになっていて、現在学校の中では触れることはありません。しかし、情報モラルという点で、自分の秘密をばらしてしまったり、人の迷惑になるような書き込みをしたりといった掲示板の悪用もあります。そういうときはその都度指導するようにしています。

吉田：本校では、コンピューター一台一台としてではなくネットワークで考えていますが、リテラシー的なものでは各学年で目標を立てています。低学年ではネットワークに触れて慣れる、中学年ではネットワークを活用して自分の調べたいことを調べることができる、あとは自分の考えたことを表すことができる、そして高学年になっていろいろな学校の人などとやりとりしてコミュニケーションする、コミュニケーションしたことを活かして自分の考えを深める、といった目標を持って取り組んでいます。つくば市でもコンピュータを利用した年間計画を立てて、市全体で発達段階に応じた目標を立てて取り組んでいます。有害情報は、ファイヤーオールで覆われており、アクセスできないようになっています。ファイヤーオールも結構きつく、調べ学習に活用したいというページでもガチガチに固められていますが、これも子どもたちのためなのでしかたのないことです。情報モラルについては、校内LANを利用した授業

つくば市・土浦市の学校の中で、文部省指定の「先進的教育用ネットワーク事業」に参加している学校は、つくば市21校（小14中7）、土浦市10校（小7中3）の31校です。この日公開された学校は、つくば市立並木小学校、同市竹園東小学校、同市竹園東中学校の3校で、よく知られている学校ですが、全体集会をするホールに近いという地理的な理由から選ばれたのです。参加された先生方は、ネットワークをどのように学習に用いているかを午前中に参観し、午後全体集会に臨まれました。

学校を参観された先生方には、自分が参観しているのは特別な学校で、他の参加校ではこうはできないだろうと考えられた方も少なくなかったようです。また子どもや先生方がコンピュータを使いこなしているのを見て、びっくりすると同時に、どのようにしてこのように訓練をしたのか、自分の学校では出来そうもないと思われた方もいたようです。

全体集会のパネルディスカッションは、そのような

の中で、例えばこういうメールをもらったらいやな気持ちがするよねとか、校内の中で経験を積み重ねて、4年生くらいになってから他の学校の人とやり取りするといった段階を踏まえておこなっています。余田：モラルに関わる場所ですが、つくば市でやり取りしているのを見ていますと、おふざけのようなものがあると、こういう使い方はやめましょうと子どもたち自身でやりとりしているものをよく見かけます。そういったことは、コンピュータやネットワークを使った授業に関わらず、普通の授業からの指導を通して必要なことなのではないかと思います。では、これでパネルディスカッションを終わります。

関連ホームページ

【中央ネットワークセンター】

先進的教育用ネットワークモデル地域事業、およびマルチメディア活用学校間連携推進事業のプロジェクトについてのホームページです。

<http://www.ed.tao.go.jp/>

【つくば市教育委員会】

事業に関わるリンク集や、事業参加校リスト、またつくば市学校教育目標などを見ることが出来ます。

<http://www.tsukuba.ed.jp/>

【土浦市の先進的教育用ネットワーク地域事業】

学校間交流や、地域学習など、ネットワーク事業における土浦市の取り組みが紹介されています。

<http://www2.educ.tsuchiura.ibaraki.jp/~tnet/>

方の疑問、問題を少しでも解決するのに役立つことを願って実施されました。一般に、パネルディスカッションというのは、パネラーがお互いに勝手なことをしゃべり、パネラー間での話し合いもなければ、ましてや参加者との交流もないのが普通です。せっかく、学びたい、自分の疑問を晴らしたい、と遠くから来た参加者にとって満足できないものが多いのです。

そのため、できるだけパネラーの話しを少なくして、会場の皆様との交流を多くとることが企画されました。皆様は「ネットワークを使って共同学習を活性化させるためには」のパネルディスカッション記録を読まれて、どのように感じられましたか。

一番大切なことは、子どもたちが興味を持ち、自分でやりたいというプロジェクトを作り、自分で考えたり、調べたりした結果を、また疑問に思うことを自由にコンピュータでまとめさせ、発信させることです。これは、どこの学校でもできます。ぜひ試して下さい。（筑波大学名誉教授/21世紀教育研究所所長 中山和彦）

スタディノート
授業実践

6年国語「やまなし」を使った交流学習

～スタディノート即時転送交流をはじめると、授業、その後～

三重県美杉村立太郎生小学校 中林則孝

長野県飯田市立山本小学校 佐野登 南波洋子

§ 交流授業を前に

インターネットを使った交流は「総合的な学習」として行われることが多いようだ。私たちは文学教材「やまなし（光村図書）を使った交流学習を計画した。教科書教材での交流は、「授業時間が確保しやすい」「共通の発問を用意しやすいので、議論もかみ合う」「教師の教材研究が進んでいる」「国語だと、各自の意見を言いやすい」などの理由で、取り組みやすいという面がある。

「やまなしで交流したい」という私の提案を受けた佐野さん（山本小・6年2組担当）からは、11月1日に次のようなメールが来た。＜中林＞

さて早速ですが、交流学習の件「やまなし」でいきたいと考えています。「やまなし」でやるとしたら、「太郎生小学校の友達は、この場面でこう考えたそうだけど、みんなはどうか？自分達の考えを太郎生小学校に送ろう。」という流れで、各自の感想をメールに打ち込む、というような方向になるかと思えます。このような方向でもよろしいでしょうか？（佐野）

メールでの打ち合わせは継続した。南波さん（山本小・情報担当）をも含めた3人でのメールがほぼ毎日1回は届いた。＜中林＞

こちらの子どもの中から、「クラムボンとは何か」という疑問がわいてきて「太郎生小の友達にも聞いてみたい。」という声があがりました。そこで、「五月の幻灯」の場面を読み、「『クラムボン』とは何か想像しよう」という発問で、お互いに想像したことを交換し合いたいと思うのですが…。そしてもしできたら、そちらから先に送っていただき、12月14日の授業の中で見たいのですが…。可能でしょうか？（佐野）

山本小の子どもの初発の感想から、「クラムボンとは何か？」という疑問が多く出されたため、この疑問を学習課題に設定し、考えさせたいと思った。しかし、太郎生小の子どもの意識（疑問）が一致するかが心配だったが、共通な疑問となりえたことに安心した。＜佐野＞

「あわ」「プランクトン」「魚」「くらげ」はやはり本校の子どもからも出そうです。14日の授業では、「どうしてそうおもったのか？」「どこから読み取ったのか？」「根拠は何か？」という方向で考えさせていきたいと思えます。本時の中でそちらの子どものメール（考え）を見るのに、一人一人のPCだと教師の指示が伝わりにくいのでスクリーンに映しだして見せようかと考えています。一斉に子どもの視点が集中して、『メールが来た』という喜びが増すかも。（佐野）

山本小の子どもにはない考えが、太郎生小の子どもから出されることを期待したところ、期待通りの結果となり、意見交換をする意味がさらに強くなった。クラス内での固定化（マンネリ化）された友達同士の意見交換からさらに視野を広げ、太郎生小の子ども達の意見（メール）を見て、『クラムボン』についての個々の考えを深めさせたいという願いがあった。そこで、より効果的に太郎生小の子どもの意見に目が向けられる手段を考えた。＜佐野＞

こちらは、本時の中で送信したいのですが、こちらの送信したのを見て、その感想などを折り返し返信することはできますか？（佐野）

この佐野さんの提案を受けて、「同じ時間帯にスタディノートを立ち上げ、掲示板での返信をすぐに転送しよう」という「即時転送交流」が決まった。そのことをスタディノートのメーリングリストに書いたところ、即時転送の技術的なことや教員の研修会での例など、多くのレスがあり、授業に向けて弾みがついた。

山本小からは添付で指導案が届いた。電話やFAXも使った（時間の確認などはメールよりもFAXの方が便利）。授業での交流がスタートする前に、指導者は10回以上のメール交換などを行った。こういった作業は、私たちにとって楽しいものだった。担当した3人はもちろん全く面識はなかったが、交流の打ち合わせをすることで、お互いの信頼関係が強くなっていったように思う。＜中林＞

§ 授業を終えて

< 中林 >

交流学習を終えた12月14日、スタディノートメーリングリストに次のように投稿した。重複するが、そのときの私の気持ちがストレートに出ているので、そのまま引用させていただきたい。

10時までには山本小からメールが届く「予定」でした。でも、10時5分を過ぎても届きません。職員室に戻り、FAX用紙を取り出して、「まだ届きません。時間内の返信が無理です」と手書きをしたところに入ってきました。待っていただけにけっこう「感動」しました。初めての試みであっただけになおさらかも。子供たちに大きな声で、「山本小から届いたよ。すぐに返事を書いて」と指示しました。子供たちは「ようけきとる」と言いながら、カチャカチャとキーを打つ音をたてています。教科書を片手に(正確には両手で打っているので、教科書をキーボードの横に置いて)返事を書いています。今回のねらいは、「早く返事を送ろう」というところにありましたから、2行から5行くらいの短いレスばかりでした。でも、発問が明確です。つまり「クラムボンで何だろう」と。だから、「賛成」や「反対」の意見が、根拠を示しながら具体的でした。あいまいさのない返事が書けたようです。約15分のバトルでした。知的なバトルといってもいいと思います。4月以来、こんなに集中して教科書を見ている姿はなかったといっても過言ではありません。そうじゃなければ、15分間に43通もの返事を送るのは無理です。15人の子供たちが。平均して一人3通となります。10時40分に山本小の担任の佐野さんから、「うまくいきました。早く返事がとどきました。興奮しました」という短いメールが入りました。短いメールではありましたが相手校にとっても価値のある交流だったことが、十分に分かりました。

2校の交流はまだ続いており、「12月の感想」の後には、「宮沢賢治の他の作品を読んだ感想」を送り合っている。普通ならいやがる読書感想文を、喜々としながら書いて掲示板に貼っている子供たちの姿が見られる。卒業前には、双方の卒業式でのよびかけをフェニックスで交換できたらいいなと思っているところだ。

< 山本小佐野 >

山本小からの送信が予定時刻より遅れてしまったのは、送信する前に、子どもたちがもう一度見直したいといって自分のメールの吟味をしたり、題名を内容が分かるように変えたりしていたことが原因であった。待たせてしまったが、太郎生小の友だちに、自分の考えを分かるようにきちんと伝えたいという姿勢が伺われた。

授業を振り返って

- ・1時間の授業の中で、双方の意見を交換できたことで、子ども自身が自分の考えに対する返事を待つという期待感を持ちながら、意欲的に授業に取り組めた。
- ・コンピュータを学習ノート代わりにして自分の考えを入力する。普段の教室では出会えない新しい友達と意見交換ができる、ということが、こんなにも子どもを意欲的にさせるものなのか。あらためて驚きを感じた。
- ・授業の中で用いた学習カードを共有(共通のものを使えば)できれば、意見交換を通してさらにお互いに考えが深まると思う。

飯田市立山本小学校ホームページ“はなのき”に、交流学習の様子が紹介されています。近々、「やまなし」で学習した子供たちのスタディノートが紹介されるそうです。トップ 花の木ニュース

<http://www.iidanet.or.jp/~yamasc/>



お世話になりました。そして、これからもどうぞよろしくお願い致します。

シャープシステムプロダクト株式会社 渡辺副参事 ご退職

シャープシステムプロダクト株式会社文教統轄営業部の渡辺副参事が2002年1月1日をもって定年退職されました。渡辺さんは、1980年代の初めからずっと「CAIを中心としたコンピュータの教育への活用実践」の小さな芽に水をやり、添え木を立てて、陰で支え続けてくださった方々のお一人です。渡辺さんなしでは、現在のスタディシリーズはなかったかもしれません。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。

会社には定年がありますが、「スタディの仲間」に卒業はありません。これからもその経験を生かして私たちの活動に関わりつづけて下さい。どうぞよろしくお願い致します。



書籍・CD-ROMのご案内

■ 余田先生が本を書かれました！

『生きる力を育てるデジタルポートフォリオ学習と評価』
筑波女子大学余田義彦編著

高陵社書店 定価 ¥2,000

デジタルポートフォリオ入門にはじまり、授業の設計と進め方、授業実践校の紹介、マルチメディア技術に至るまで、デジタルポートフォリオに関するノウハウがぎっしり詰まっている一冊です。

■ 吾妻中学校の実践が本になりました！

『「教科学習」と「総合的な学習の時間」の
ひびきあいを求めて
～探求 Explore・交流 Exchange・表現 Express を中心に～』
つくば市立吾妻中学校 定価 ¥2,000
ソニー教育振興財団ソニー教育資金で最優秀賞を受賞した吾妻中学校が、スタディノートを活用して3つのEを育てようとした実践をまとめました。
お問い合わせ：azuma@azuma-j.ibk-tt-net.ed.jp

■ 並木小学校の実践がCD-ROMに！

『児童一人ひとりの思いを生かす学びのネットワーク』
つくば市立並木小学校 定価 ¥2,000
先進的教育用ネットワークモデル地域事業で取り組んできた平成10年度から13年度までの研究成果をスタディノートを利用してわかりやすく説明されています。(スタディノートがなくても見られます)
お問い合わせ：tsukuba@namiki-e.ibk-tt-net.ed.jp

スタディシリーズニュース
STUDY SERIES NEWS

【1】スタディタイム試用版 Vol.2

「スタディタイムってなに?」「興味はあるけど使ったことないなあ」という先生方に朗報です。今回の試用版は、CD-ROM 1枚で、現在21世紀教育研究所で配布しているECONews登録教材のほぼすべてを体験することができます。マニュアルやワークシートも含まれています。

【2】スタディノート実践事例集を集めたビデオCD

21世紀教育研究所がこれまでに制作したスタディノート実践事例集ビデオ4巻を、1セット(2枚組)のビデオCDに納めました。まだお手元のない先生、研修会にお役立て下さい。

スタディノート実践事例集ビデオCD

- 「総合的な学習の時間」に活かすスタディノート
八王子市立柏木小学校
- 「総合的な学習」としての環境学習
つくば市立並木小学校花室川プロジェクト
- 「音楽」「生活」学習へのスタディノートの活用
滑川市立西部小学校
- スタディノートによるデジタルポートフォリオ評価
五年国語「朗読」への活用
つくば市立竹園東小学校

以上を配布希望の方は、下記へお問い合わせ下さい。

シャープシステムプロダクト(株)文教統轄営業部

[E-mail] study@ssp.osa.sharp.co.jp

[FAX] 06-6624-0764 [TEL] 06-6625-3233



ECONews 郵送会員登録 随時受付中

ECONewsは、21世紀教育研究所のホームページをご覧になるか、または郵送で受け取ることができます。郵送会員には、年会費1000円で、年6回発行のECONewsとECONews教材CD-ROM、スタディシリーズ試用版CDなどを無償で配付いたします。くわしくは、下記までご連絡ください。

注意 ECONews教材CD-ROMは、希望者のみの配布となっています。申し込みをされる際は申込用紙に教材CD-ROM希望とお書きになるか、その旨を当研究所までお伝え下さい。



新年おめでとうございます。
今年も21世紀教育研究所を
どうぞよろしくお願ひ致します。

Educational Research Institute for the 21st Century

21世紀教育研究所

address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6

TEL 0298-50-3321

FAX 0298-50-3330

e-mail econews@green.ocn.ne.jp

URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp>